

下  
增補  
筭  
節



服部文庫  
117  
360



117  
360

平澤隨貞先生著

不許翻刻  
里必究

卜筮  
增補  
百筮



奠辰樓藏板



卜筮百筮序

隨貞先生卜筮の妙をゆき乾坤の函微  
に達し名聲一々城をめぐりてるを辰を  
めぐりて及此の所葉順軒の傳すに  
きり種籙の書ハ是に年刊し今を  
し建以傳る坎水法術として深く良山  
巍然とありてあるは信の月出るに  
とれとて禁せしこと其の用くを

れ一あふふ人あふすや今さふ其要  
に一さす迫く文飾を加ふす一と見  
女子は蒙とらふとと曉しやましく非  
の懸望ゆらふす瑞福を示すの増的成  
あふく免く己成省と人成す免善とを  
すの一物とちまらんす成成す一片の成  
ふゆ己の謙よとと時ふ録火の成  
指と廣く之澤の恩と成絶すとも也

書成くふ下二是目とすト並音節と  
去乃と志成速く是のさふ冠  
めんす成鳴とと周く事成條とと  
あつり  
冥曆癸酉初夏

随蓮堂

後仍後



増補ト筮言節目錄

一 筮之例 并卦の例 爻文の例

一 八卦之例

一 六十四卦之例

實爻 古人之占

失爻 卦象

卦象 卦象

卦象 卦象

卦象 卦象

卦象 卦象

一 按卦之例

射覆 待人 貴賤 天象 卦象 爻文 卦象

一 病の占

一 至人一之例

筮の例

筮殺五十本

用尺ハ毎尺の六寸四分を以て一尺とす

筮の切山との方杖兼下の方杖

是くは陰陽と云ふ下杖なるもの

並盤の式ハ古法何の古書に考へ

自好む所ありて之を辨明し

作らる

算本の式も是よりある



四年何事也ハ辰五年何事ハ未六  
 何事ハ坎七年何事ハ艮八年何事ハ  
 坤の卦なりと云事之支と云事ハ三  
 度目の下卦の九りの子にもちしる  
 斗ハ本卦の二支ハ付く二年何事ハ三  
 支何事ハ三支四年何事ハ四支何事  
 何事ハ五支六年何事ハ六支何事ハ

知し事陰支の二時ハるん事陽  
 何事又陽支の二時ハるん事陰  
 事何事と知る人  
 支より右本卦と變卦と成見合て  
 判證事ハ口傳有

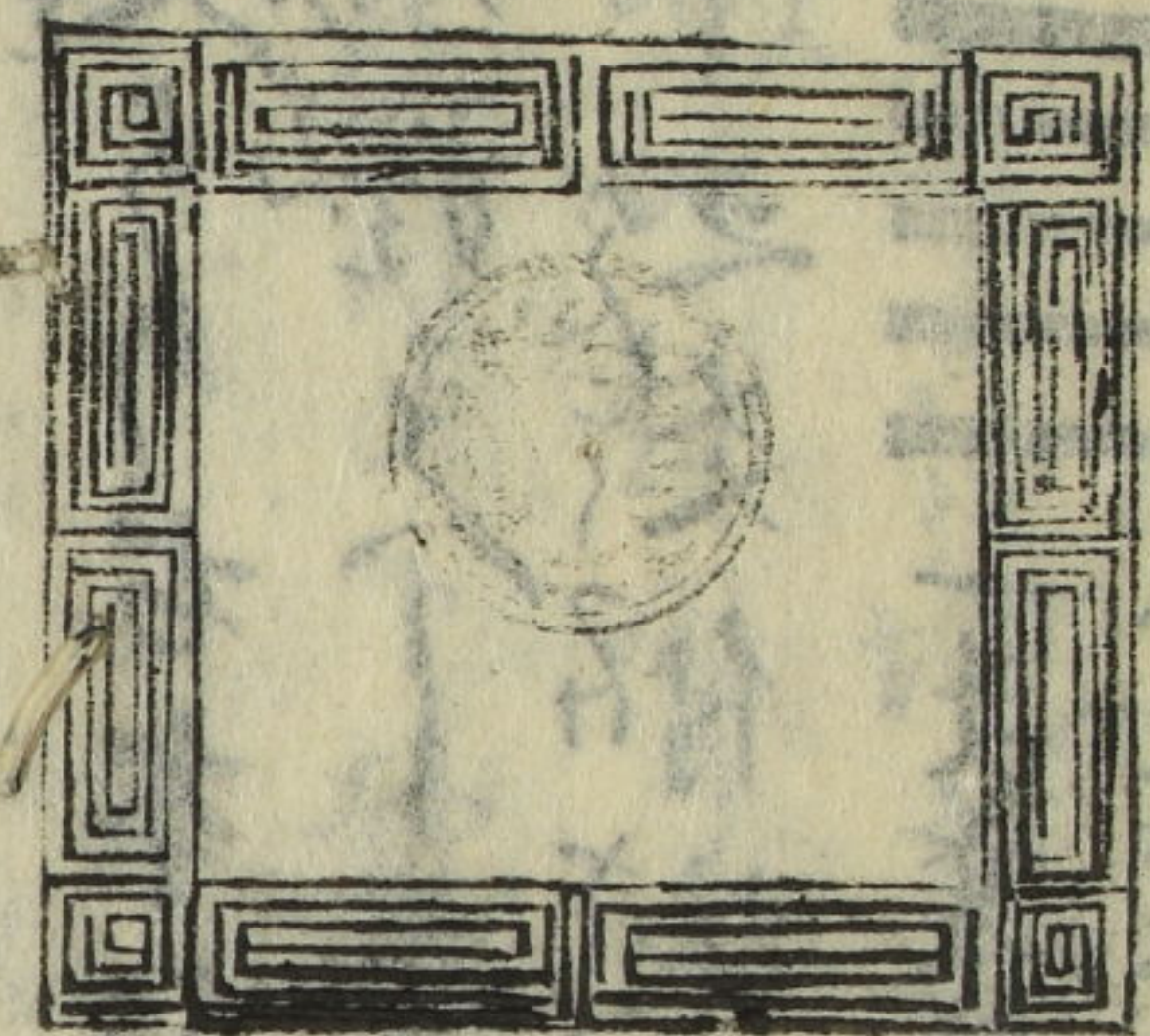
之交付様  
 一爻變城  
 六爻變城上支也



再改音辨

〇五

先生家系の書も是切なり  
時下以押さるる此中を記す  
為板ある事以察知す



増補ト筮音節巻上

平澤隨貞先生口授

門人

龍足子仲祇貞

訂註



乾天父金

大西 赤北

圓



白 辛

そく ちん かく かく ひらく ちん ちん ちん ちん  
あひのせり ちん やあひ やすく 天 天 天 天  
やちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん  
ものちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

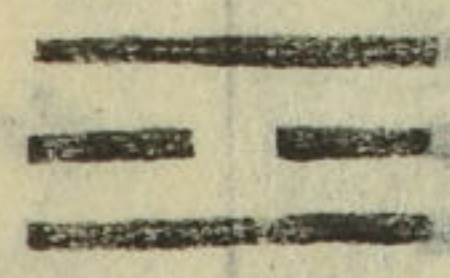


兌澤 少女 金 西 月



句 辛

くろくひくくくろくろく口のきん くのきん くのきん くのきん くのきん くのきん  
あまきのいたとの 魚のきん 花のきん 口のきん 口のきん 口のきん  
くすろく 色情 けやーきり



離 火 中 女 南 三角



赤 苦

くろくひくくくろくろく 文字 志づく 明かき  
あまきのいたとの 魚のきん 花のきん 口のきん 口のきん 口のきん  
くすろく 色情 けやーきり



震 雷 長 男 堅 木 園

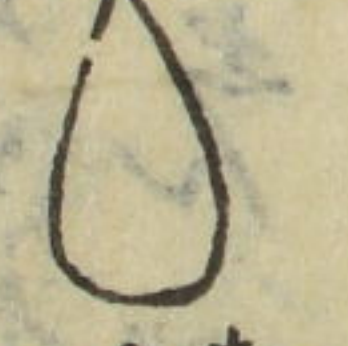


酸

くろくひくくくろくろく ぬつつくくひくくくろく  
くろくひくくくろくろく ころけゆるいきものきん  
あまきのいたとの 魚のきん 花のきん 口のきん 口のきん 口のきん



巽 風 長 女 弱 木



静 酸

いとしほ けくくくくく やししししし かなり死り 金物  
くろくろくさいくもの 休むん海 かがむ けくく  
くろくろくさいくもの 休むん海 かがむ けくく

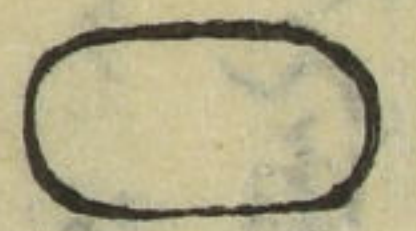
再入二百節



サホ市の五ん



坎水中男北



黒臍

さーも入る々々る々 ふうらう 念もあう 他  
さむう 引さる 物気 足の五ん 雲もあう五ん  
花咲 實生の理 ころくごる 色懐めぐる理



艮山お男土北南

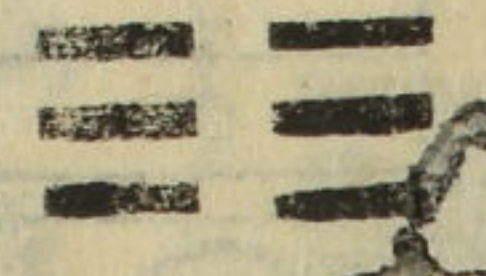


黄甘

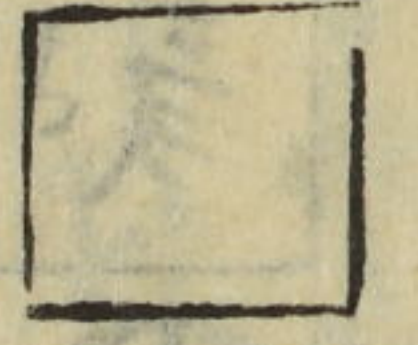
つ もやうりるさうすりさ記さむ光る  
やまの 引さる 引うらる あらるり 象さる

紙

取るさり あま



坤地母土西南



黄甘

粉 五んかのほろさかーさるう 殺者さるう  
さるさるさる ぬるの 念もあう 念もある  
丸もさる 方ぬさる 茶もあるさるものう  
さるさるのさるさる 天の理 五んかの理

合文

○待人まちびと

○失物うせもの

# 六十四卦之傳



願望ねんぼう



天氣てんき



賞賞しょうしょう



乾为天けんゐてん

六龍御天之謀 廣大包容之象

ユレヨリト八卦象ノ字ニ四

よく〜〜〜〜〜  
の氣つひまぎら給今銀子く〜〜〜  
今銀ある〜〜〜も〜〜〜位ある人ハ  
よ〜〜〜人ハ財の介〜〜〜む〜〜  
〜〜〜人城ま〜〜〜又〜  
〜〜〜月上の人と〜〜〜合  
〜〜〜終る〜〜  
今〜〜〜使〜〜〜

くろおきて有りひろなりいぢてくる  
理位ぞ有りよく一々まもれ本もといぢり  
きつものをへりのいんものうまき  
座子いんのするめん辨いんの海いん破はるもの  
おきもの

古人いれとく大よひろくまかろくまき  
いさう山々の通ありい文画いん雷いん雷いん  
大よいんある人の海いんよいんいんいん  
の海いん中仕残いんいんいん  
○いん後いん追いんあいんまいんまいんまいんまいんまいん  
○いんいんいんいんいんいんいん  
○いんいんいんいんいんいんいん

風雲相済 君臣會合



天風姤

女いん人いんまいん男いん子いん人いん子いん

対いんくいんくいんくいんくいんくいんくいん  
るんいんありいんありいんありいんありいんありいんありいん  
ついんきいんらいんらいんらいんらいんらいんらいん  
子いん大いんまいんまいんまいんまいんまいんまいん  
心いん并いんといんぶいんぶいんぶいんぶいんぶいん  
丸いんあいんのいん丸いん丸いん丸いん丸いん丸いん  
いいんわいんらいんひいんほいんのいん丸いん丸いん丸いん丸いん丸いん  
ついんるいんるいんるいんるいんるいんるいん

あつり合はるゝ  
 古人何れもひ女の志ん化しやうのよめ  
 けしうぬこちのよめ大なる心  
 ろしあつり何れも強きこころ  
 うもこわけまゝのこころ成る

○ おそくまゝなる

○ <sup>いし</sup> 南はまゝの

○ 何れもひ心

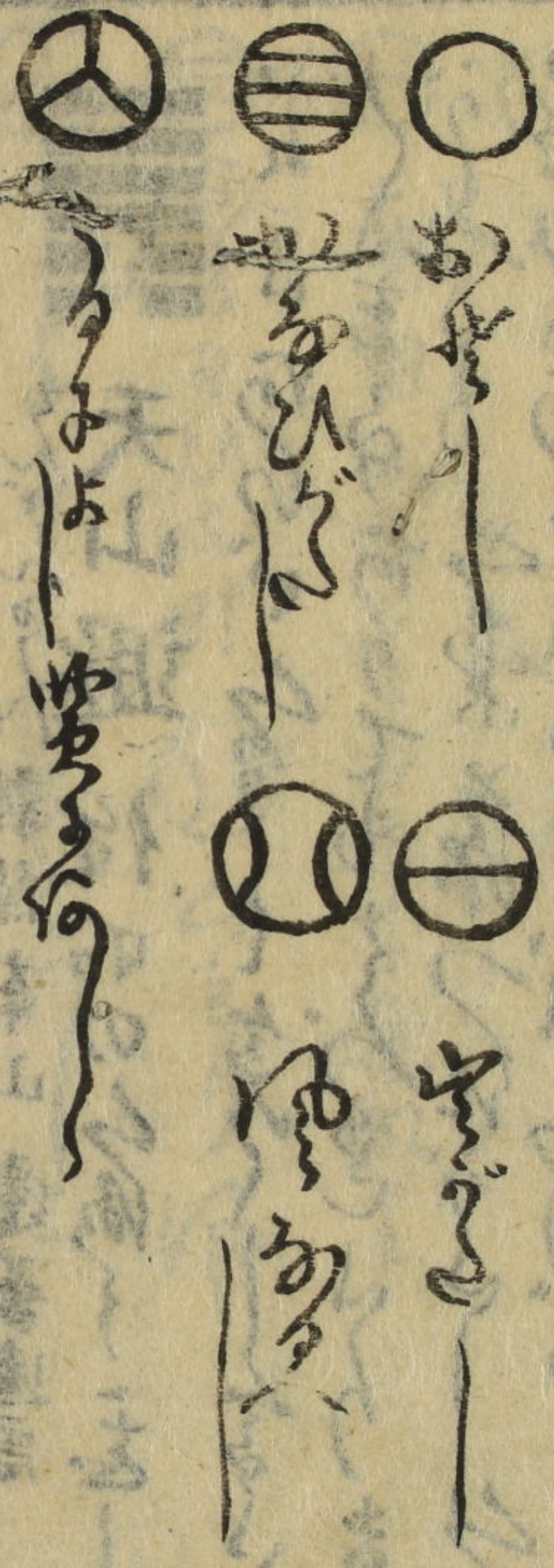
○ まより 何れも



<sup>てんざん</sup> 天山遯 約隠南山 遷善遠惡

ひまはちのこころもまゝに成  
 くまゝなりてもまゝに成る  
 ぐんぐん 何れもひ心  
 のがまゝに成る  
 九角どしちしるものうもや  
 つまゝなる何れもひ心  
 すつかくものりるがれもの  
 あつたものる

古人一たび怪而試きたりとて。の運  
るる又ほりこもるをいひて  
るりてくろくくくく山あのを  
ま牙わくくくくくくくくく  
く大牙必試嘗くくく人



るまよはしきまの



天地否 四才ふさぐりるや

あまの志くくくく又めくくの人おけりて  
まき合くくくくくくくくくくくくくくくく  
未年運ひくくくくくくくくくくくくくくくく  
ひくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
ひまひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
だよ  
ふくあるくすほくくくくくくくくくくくくく  
おく合くくくくくくくくくくくくくくくくく  
のくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

古人の心我々も<sup>も</sup>わびぬ<sup>に</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>り  
おそろふ<sup>の</sup>ぞ<sup>も</sup>て<sup>て</sup>なる<sup>る</sup>は<sup>は</sup>り  
ふる人<sup>ら</sup>又<sup>も</sup>い<sup>は</sup>れ<sup>る</sup>に<sup>ん</sup>て<sup>て</sup>く<sup>く</sup>  
ま<sup>は</sup>ら<sup>ん</sup>た<sup>き</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>ら</sup>なる<sup>る</sup>は<sup>は</sup>り  
も<sup>も</sup>ら<sup>め</sup>ら<sup>る</sup>は<sup>は</sup>り<sup>人</sup>を<sup>を</sup>

○つ<sup>つ</sup>き<sup>き</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>来<sup>来</sup>が<sup>が</sup>一<sup>一</sup>お<sup>お</sup>せ<sup>せ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>べ<sup>べ</sup>一<sup>一</sup>

○や<sup>や</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup> ○め<sup>め</sup>う<sup>う</sup>一<sup>一</sup>子<sup>子</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>り

○吉 ○ま<sup>ま</sup>よ<sup>よ</sup>り<sup>り</sup>一<sup>一</sup>賣<sup>賣</sup>ま<sup>ま</sup>何<sup>何</sup>



天沢履

知履虎尾 安中防危

も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>よ<sup>よ</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>り

や<sup>や</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>し<sup>し</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>り<sup>一</sup>一<sup>一</sup>膝<sup>膝</sup>た<sup>た</sup>る<sup>る</sup>任<sup>任</sup>可<sup>可</sup>の<sup>の</sup>

何<sup>何</sup>を<sup>を</sup>も<sup>も</sup>た<sup>た</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>り<sup>一</sup>一<sup>一</sup>き<sup>き</sup>ん<sup>ん</sup>は<sup>は</sup>り<sup>一</sup>一<sup>一</sup>ら<sup>ら</sup>を<sup>を</sup>

ある<sup>る</sup>は<sup>は</sup>り<sup>一</sup>一<sup>一</sup>女<sup>女</sup>の<sup>の</sup>裸<sup>裸</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>り<sup>一</sup>一<sup>一</sup>ら<sup>ら</sup>を<sup>を</sup>

い<sup>い</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>り<sup>一</sup>一<sup>一</sup>何<sup>何</sup>を<sup>を</sup>又<sup>又</sup>り<sup>り</sup>き<sup>き</sup>ん<sup>ん</sup>は<sup>は</sup>り<sup>一</sup>一<sup>一</sup>ら<sup>ら</sup>を<sup>を</sup>

何<sup>何</sup>を<sup>を</sup>も<sup>も</sup>た<sup>た</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>り<sup>一</sup>一<sup>一</sup>や<sup>や</sup>な<sup>な</sup>し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>す<sup>す</sup>規<sup>規</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>

金<sup>金</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>礼<sup>礼</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>り<sup>一</sup>一<sup>一</sup>ら<sup>ら</sup>を<sup>を</sup>

あり<sup>り</sup>は<sup>は</sup>り<sup>一</sup>一<sup>一</sup>生<sup>生</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ん<sup>ん</sup>は<sup>は</sup>り<sup>一</sup>一<sup>一</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>あ<sup>あ</sup>ん<sup>ん</sup>は<sup>は</sup>り<sup>一</sup>一<sup>一</sup>き<sup>き</sup>ん

し<sup>し</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>り<sup>一</sup>一<sup>一</sup>又<sup>又</sup>り<sup>り</sup>や<sup>や</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>り<sup>一</sup>一<sup>一</sup>ら<sup>ら</sup>を<sup>を</sup>

古人はつとくしくおしくしきつみ  
 裸のきんりまくり大まはみあり  
 なる、何きなる

○ つまゆりおそらきとを来る

○ せごー 礼子かりー

○ 晴バー 利ろすー



天雷无妄 石中蘊玉 守明安常

うたのやふさるさちそはきとを何  
 ちるー病ハ業成何さるさあつさ  
 ととさきとを天災の卦をさハ心身  
 落つ子位所を務立をおそれ信  
 くして金銀のくさる者  
 何ぶる記理あつつくひつつく又  
 今まの事を丸みさるさるさきもの  
 あつひハのびちどこのあるもの  
 ちんとできさる

再文二言部 十四

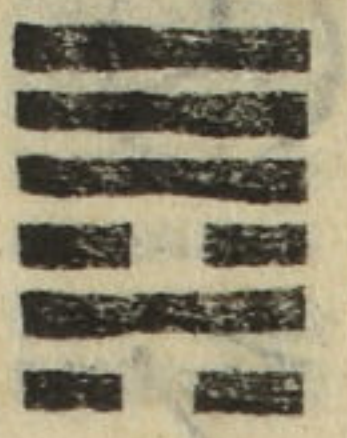
古人ハ天災の程をばさうらりあま  
 う何やう記するや何ひ——いきはし  
 つよ記人々あるを——

○おしおそらるべ——来る

☯ おきますきさうやる——

☳ 人がこのまてお——

☺ 吉  
 吉——先理あるぬやうあま  
 くとほ理あり——



天水訟  
えんすいせう 俊雁鳥逐克 天水相違

めう人の人とすき合う何くまひもつせ  
 むのうーき人あり 願望さこりあて  
 ぶ業才の上とも年もああらる合こ  
 くの各々えおらり何りこらうさあひる  
 こらうあり又ぶん志あいの指南なる  
 人々  
 教者ものうにこ合今とあうすわと  
 ありさしこむうくひあきさの  
 あるのあるらみういとひほしく全



と下もあつるころあつる  
古人にあつるそひあつる何きり物の  
師あつるいまほひ何り何り又  
あるとあり城郭子養やもあつる  
うあつる

○ 中におはし ○ 中におはし

○ 中におはし ○ 中におはし

○ 中におはし ○ 中におはし

天火同人



天火同人 遊莫從水二人分金  
大子吉志

とこころ城合やちりる城志絶一人合也  
よりくくくくくくくくくくくくくくくく  
よくおもひきききききききききききき  
かくやくくくくくくくくくくくくくくく  
やぬと云やちりるありおんくくくくく  
ふ  
たんの志もあつる人よ志さしむもの志  
身弄つくものうぐあひよききききき  
るの志何りて思ふやあつる

古人に伺いて有りて事成志也一合  
 ちり文くもち孝ともよも起人  
 う書のお一言のこ一なる事  
 あらう遠方一行たご志する

○ きつる

○ 中屋



らんで有りて



ちいそん



ともしの理有り



定為澤

江湖養物 天降雨澤

ことかお女二人よりてことあきさる  
 くといり有り壺有り口故き  
 ず金銀のく有り有り一あり  
 笑はちらこびの卦をきハめでし記  
 るみ有り

口のあんくいものゝあんくあり金物  
 教ありぐひいよきうあ合とる  
 ひぐまあるけしお二一の何物

再入

ちろろあるもの  
古人ハ口ハこぼれあり何れそひあり  
女の急ん長袖の急んちろろあるを  
勇力あはれり事うてさるるをばへ

○ すあー ささり何きさもあつぎ  
あはれ

○ せごー  
おー何れそひ  
ささり何れへい  
せんとして成り

○ 利すすー  
あ  
西めらるー



大困 河中無氷 事已待取  
大困 窮の卦あり

るうあろろー 金銀子つまり気  
つめは折万る心耳あをんむ  
川中水を乾くもく 義者よ  
色懐のさ  
ありさあまさまに形を不叶  
メくろと 智ぐれものくまきり 水きり  
おきぬものよまきそるる ころろ  
火急そそぞろものろ 包きてあう

大困

果てするもの年一とあつくり  
古人のつとむるまじきこと  
うらまはのそごりしるものあり  
器ありし教のつとむる人

○ あそふ人  
○ ちかひ

○ 絶てあるべ  
もあつてお細  
○ 天を身る

○ 時を身るまてどお理あり



くちまの 泉金雷聚 如水乾下  
我す此このむす

あり 積 務 負 ず す くり 漏 者 ず

くりにさやうあるはくを又ハ  
うあいやさきり 利徳あつてある  
怪取のくろくあり人々入る  
いやさき休ありは倍者

牧あるもの口の多んふく  
今もあつてさいくもの  
やうあるもの内のくさあ

再録  
 十

文くし ありありはるる  
 右人ハ人ありありはるる 縁やうある  
 ありはるるはよこらばあるう方  
 くさあるまはるる 縁やう

○ まいる ○ おそくまはるる

○ ざいりす 〇 雨を言る

〇 恒者

文くし ありありはるる

澤山咸 山澤通氣 至誠感神  
 男の女あり志るる

又及ぶるところありすむ女のこゝろ  
 ありこゝろありありすべて  
 人よありおほいなるありあり  
 人よ咸 一はめりるるあり  
 ことあるありはの多んあるあり  
 ことあるありはの多んあり

澤山咸 一はめりるるあり

古人ハ、<sup>び</sup>く道方(心)のよしひ女  
 の多んあり歌人<sup>び</sup>の世はうさる  
 人をほめしきしるり名は残し  
 する又へざる所(こころ)のよから  
 やるるある人がある(一)



きこる すこい



さべ



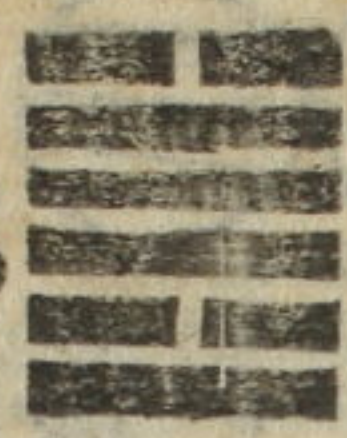
他よりきこるは告る  
 大吉又婦人ニ自てく  
 ろくあり



雨おあり  
 ちき



何せもよ



ふくむく 豹変為虎 改日新  
**沢火華** ことばのく先又

もやうはせある事ありて吉何れ  
 ひ女中よりことありもつさむの  
 り一 弟上ままつうひくろく  
 ともすりぬ事あり改りて世  
 立者しよる  
 事の改あるは、事ひきき  
 も入るく  
 現くあり二人でく

こやうあるもの  
 古人のいふ文をよめるは  
 くるりいきほひいりまひ又  
 くるりいり又出るくこもく  
 うましつありしついでいつ  
 ちれんうあまを

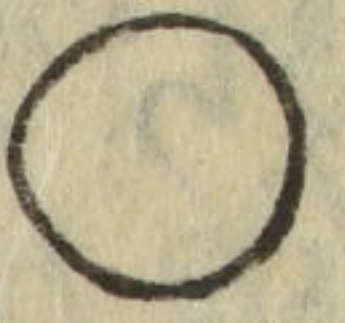
○きこる ○やがてー  
 遠一むひのまうへうさびかふるまあり  
 五の古のまうへうさびかふるまあり  
 うりかうりあま 改りて言



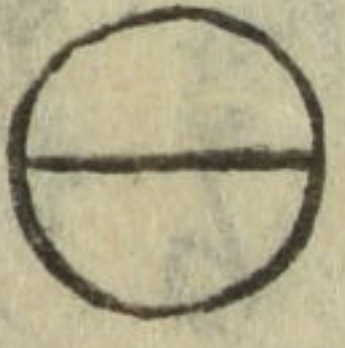
沢風大過 心破もつゝ身破

くもむおの後悔まらうあま  
 りんちのひまちづひもぢをす  
 ぢれおちつづるくうく多  
 本末をとも弱ー又あつけを  
 袖のふひも出るりりりあり年  
 ちづひ等る遠の理あり  
 つれあるん遠のとのあまほあり  
 愛のう中うりあういとひも  
 ひさあるりいりとき

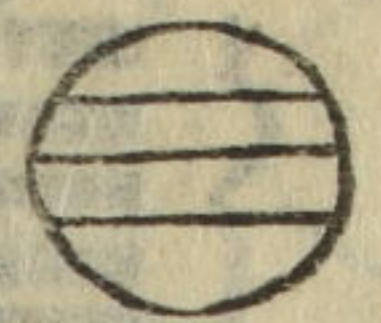
古人ハ坊まう長袖ウ人哉らうす  
 うらさきるるる遠ま何あうか  
 ものり悪人ウ存あちうう又す  
 ぐきても紀人のつ結まをき大  
 る哉かーいなる成るー



る遠



のゆるゆる遠の  
 あり



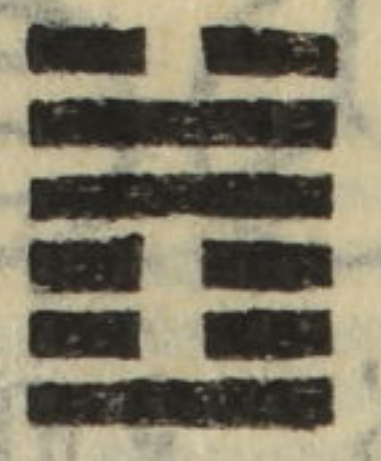
万の中自滅  
 の心ありなり  
 びするさうる



雨



アやうもんちのひ又ハる遠を損徳者



沢雷隨 任所のる、あ

まう遠まの程生さるあすま  
 ずしそ古々いはいあう  
 ほどす急よーいあけささであ  
 目との人すすくさきさ  
 者分心方ささあやふあり  
 ものまづらあるくものう又まら  
 すりらがまぶつうくうううげら  
 せんほらより来るものうあさ  
 さいくものう

良工琢玉 如水推車







古人の軍をどあり一々切つ又  
きしきしあどせしりきりの故又  
けり一きさあしる人々

○    

○   兩

○   一

飛禽遇網 大明中天



離為火

あき 離の事ありあひとあひの氣を兼  
ぶ一何をもあり志あんとぶあき  
おしあしあひのこもありとんき  
ありあのこつらおあてむさか  
いさこもありくもあき  
いあきあしきもあき  
あきあるもの火あき  
殺むるあきあき  
うけのうらりあきあき

やぶきやすきりやーおろつくり  
た人の文章多岐ありて  
かきのふーさるりひのこ  
あふそひちの者任取らあき  
ほろくも何のまらりて  
さるりあさりあーさる

○おーさるり  
あきと来

○やーいー

○あふそひちの者任取らあき  
ほろくも何のまらりて  
さるりあさりあーさる



火山 志何んまびまに

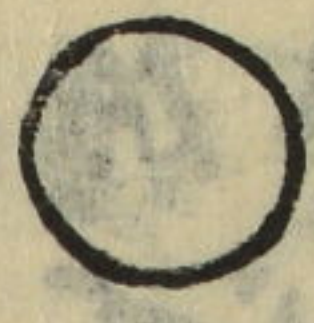
任取のらりまらるびーく又  
とび立のこらみまも心だり  
まらるこらまらるこら  
のぞとあらあきと来  
あきと来あきと来  
やーいー何れもあきと来  
いんぞりもやーいー  
こらまらるすくすく

再改自序

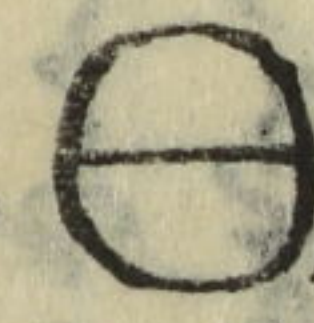
十五

とびくもき所は成るる又人ほり  
より来り方おをいへるを  
くほあるもの

右人位所をきありきさるを  
文しやりのこしるるるる  
大聖及子弟二代の卦とさる



素天



知者



暗天



振人



振人



火風鼎

調和鼎 去故取新

る又しやもん書付中状ふ

今子事このあえの卦をきハ何

とひしやもの何しちるる又ハ

七のきままるる者

のあえ何せハあまうつらあるを

今このあしおしつる文ハ物

きこのあしむるものあし

このあしあしあるうす

あしこのあし



かとの入きるをいひて  
古人にちりし事いふは  
あり記さるうち候し  
何れも詩哥ありて  
きくざるを

○ きーん せんばいあり

○ すゑきき せいせん

○ 見合せてよろ



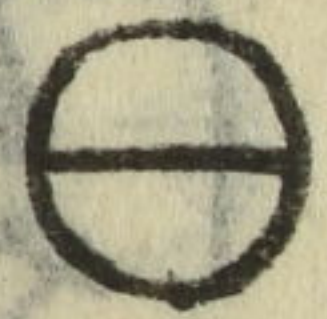
火地晋 龍舞出匣以臣遇君

子すむらん 子すむらん  
たりかきそく たりかきそく  
大すすゑて 大すすゑて  
すすむく 女すむく  
この紙やぶるを やぶるを  
入り火氣の 入り火氣の  
くめらるを くめらるを

古人あつたはいまほひするがよしとて  
まのしきうそのまのまやぶりのしるこ  
のほりちのしるまのしきいけりまは  
やうしるうしるまのしきいけりまは  
しめしほを文くもある成隆



○ 謙



○ 坤



○ 艮

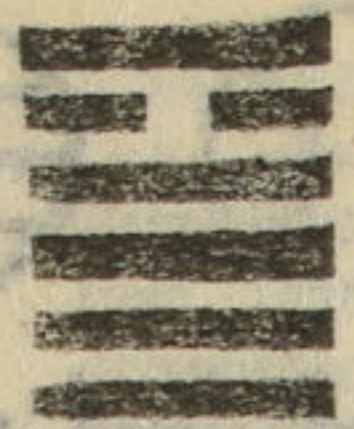


○ 天



○ 巽

金玉満堂 大明中天



火天大有

火天大有

きよしむのやういけりしるまのしきいけりまは  
しめしほを文くもある成隆  
まのしきうそのまのまやぶりのしるこ  
のほりちのしるまのしきいけりまは  
やうしるうしるまのしきいけりまは  
しめしほを文くもある成隆

古人の大王よりききりて又  
新代までりのまじりて何れも  
文々も何れも月々のまじり  
しるを忠孝あるも子にまじり  
を

○ きよむへー ー ○ 中へのゆるるゝ方ね

⊗ 叶へしもちると人ー ー やつらひひび引

⊙ 晴天 ー ⊙ 利へてー ー

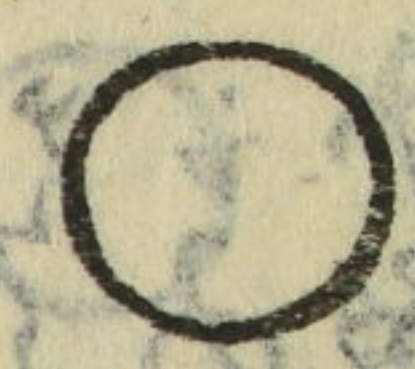


火沢睽 猛虎臨 二女同居

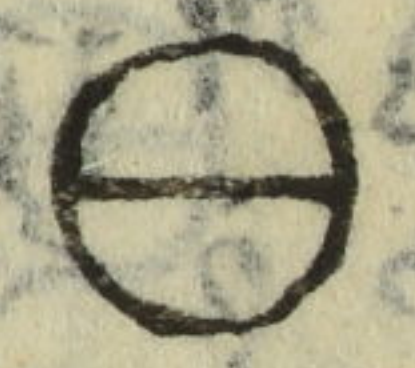
火のさむい物へおちひすべし  
すべしし中何しくも  
くわゆるるす。理えを銀のく  
まのへあり人件うあしほつ  
いあうり見よくきりいあり  
らくさうつ縁のやうに  
まの城さすおを入るこほ  
うまそんあをいひまき  
さいくものを



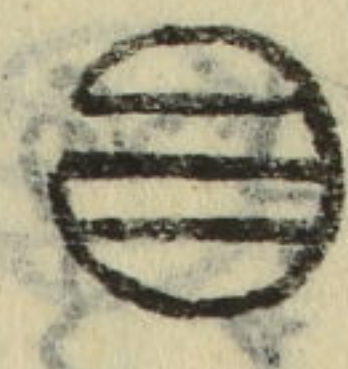
古人の言ふ事ありあはれなる事ありし事  
々ちの事ありあはれなる事ありし事又女子  
の事ありし事ありし事ありし事ありし事  
なる人ありし事ありし事ありし事ありし事



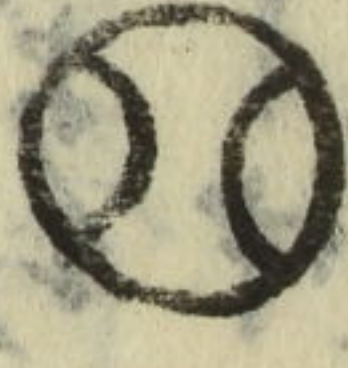
天行健君子以自強不息



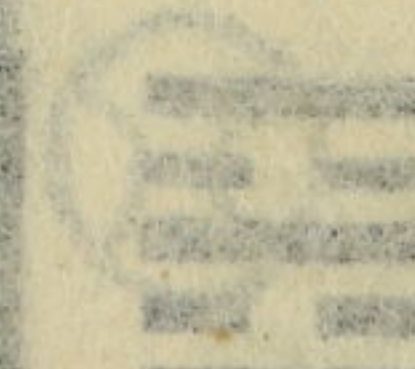
地势坤君子以厚德載物



離火也君子以繼明照于四方



天洵りかき高き  
ありては水の  
多し



艮山也君子以思賢自見



震雷也君子以恐懼修省



火雷噬嗑

日中為市曠中有物

日中為市曠中有物

ありむのよおもひり出さんとする  
こころありり出りてよし和合  
するさすべしともの志なりあはれにさ  
るがしおちつたごころともの  
引のこまなるやうあはれからちあは  
れゆるぐ  
よ下より合せざるやうあはれつくり  
ひつくりともの出入るもの引ひけり  
ひらげらるるものゆるぐ

古人ハいさるめんていりぢりまのこ  
しるういま即ひあるり

○ 来スー 〇 去スー



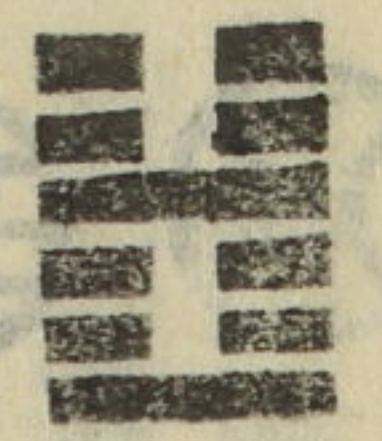
らのめるー但一んのも  
いまおちりてすーす人  
をぬまのしあふ成す形



晴天



うるまよ  
晴るよ



ちんわくい 震 震 震 百里 有 声 無 形  
震 為 雷 ちんわくい

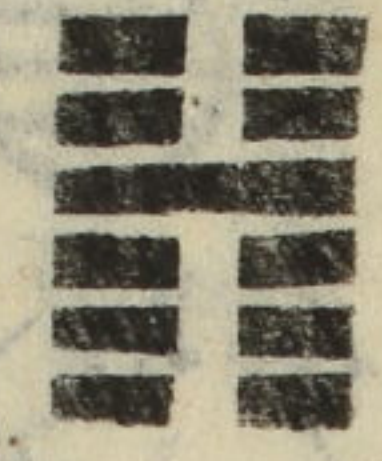
がしくささるのしきこるくこ  
てかこちあしとゆへー  
ちあふくをせんこも  
何り又大ぢひ子う  
有何くをぢく雨のく  
さるまよのうひつ  
まのら生まのちん  
のちんひく長きまの

古人のいなきやひ名状ひ  
 うせ大勝子あきこころとく力あ  
 又ありきさるういせひつよ  
 ざりりまは傳者

○まやく来る ○さへ

☳ 叶べしおとろくろくろくろく

☉ 天気又風を ☺ 理あり



雷地豫

鳳凰生雛 万物榮榮

おちつきぐさーちる雨のふら  
 ま有ことのやすす斗りよく  
 とげさるー子彦哉やーあひ  
 せとてあげるやとて又地よら  
 のおどろろがこもくさーちるこ  
 ぶのほろ  
 こまうあるもの状のりるーあ  
 びやういめほしうのーあ  
 げのやうあり守あひ

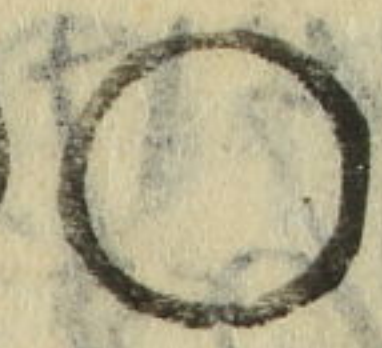
ぞらるら おとびくき地とまおどるを  
 志也れあるりーんときり  
 古人も君のころんははるすの程  
 む口の多んおどりしを純る志也き  
 やらの程さとりりーんときり又  
 佛非の多んあえー



春雷行雨 憂散生喜  
**雷水解** 志何んさぶさうん

ぢー水のろろー ーび立やすすよ  
 けさるもとまうん ーおけゆん  
 ぐかーありとー ーおやうーり  
 有ちくもこのおあり  
 ぐいひあく志あつりさー ーむ  
 又もさほくー ーおむ  
 うけらあさあおう教あるり又  
 るるるるーんさうり  
 ち純るもの

古人ハ志人傳々ノあるきもくわりて  
 一知あるんぎよ何ひぢくあきと先  
 す素子あしきも者々やまじし  
 ある人々文画あり終奇あきあ  
 一時の遊するを成るし



中



退



契



兩



利

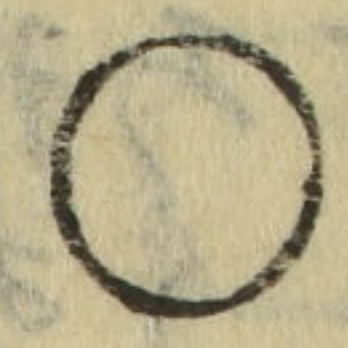


雷風恒

日月長明 四時不感

恒有ん為おどやあはれぢく亦の  
 ろく者小人あはれもくつ終  
 す大人せん哉んつ子とす  
 酒きあはれあはれ心きぶす終  
 つ終子入用の程久しく用る程  
 たくをなび子用る系ひ係

ひくくを金ものう生ものん  
 ある  
 古人の長壽うめて堂起りのおあん  
 こぶろをんほくりきるう又た  
 志よさぶあふ久しし物り  
 る中あるうお



おそー



おきまきさるう  
しる物り



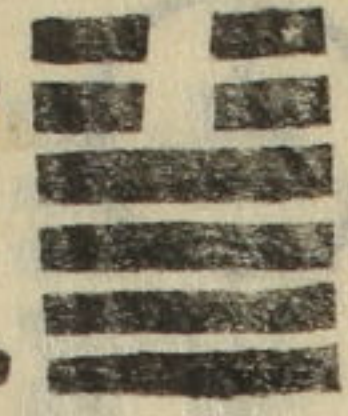
もろとるべーあま叶ふ



ひより



小吉く

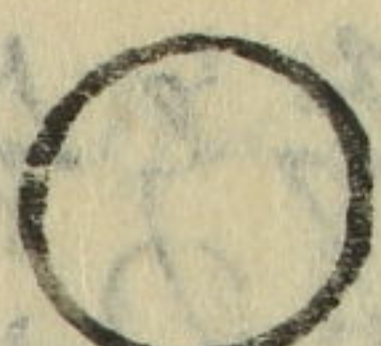


雷天大壯

らうてんたいさう 先逆後順 獲羊留藩

あやうとまきぬといあまむむ福子  
 龍の威たるをさおとひさるるお  
 合がするを人おぎりづくあ  
 その威うすを長袖を又い一の  
 多ん者軽なりしを全うるや  
 すも細るあり  
 おりまごのりきるるうのあるう糸  
 ひぼひくくう人金ものうつきあて  
 るうすくふを

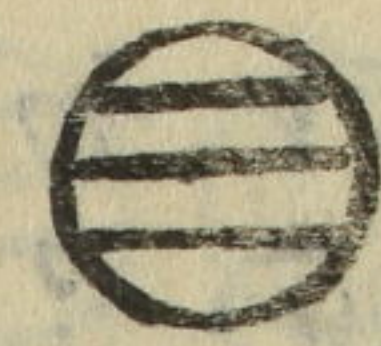
古人ハ若シハひりり大あり中ハ  
けりし大をすくひし  
けりし大をすくひし



おぼし—但—途作  
まくまを



山—う—



川のり—す  
う—



く—



理—

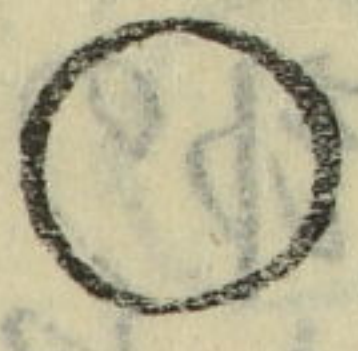


雷山小過

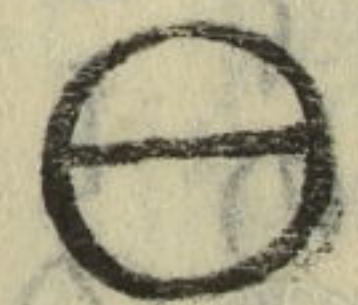
この雷の象は

ひくく—の—  
きの—の—  
の—の—  
都—の—  
あ—の—  
ひ—の—  
又—の—

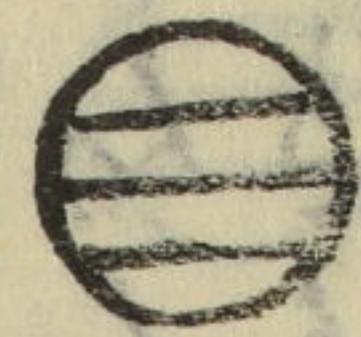
古人くもしく多く口の念んげいの程こそをのこつてきりて何れも又死あきり何れもきりて歌人うあるを



きりて



道のつらき



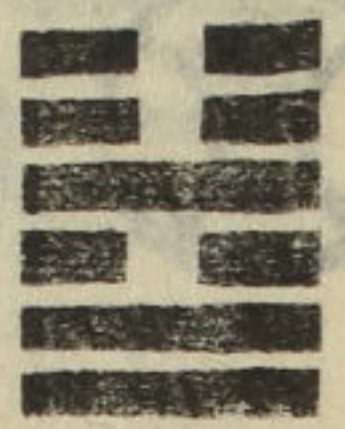
よりすよしく何れもあまるとりて



くもらう雨



新うす



雷沢 飯妹

らゐさくきどお 浮雲蔽日 陰陽不交

ひとゝおあるもの我れ入づきとつふよしくいりてあまこととと来とげす心身おごやうあまにまぢがふよりまぢまぢとりあひのけるまぢのいり何れもこのまぢり哉やれ都々そむき何れもまぢひびき何れもあかまの入りら金ものうもつとまらみら

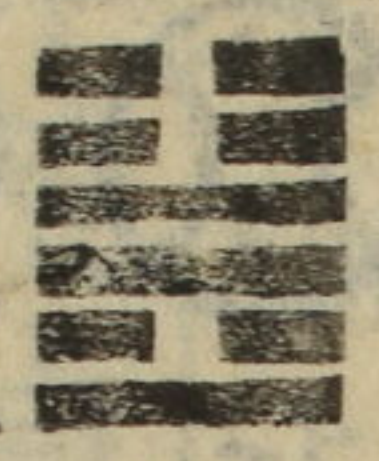


古人ハすちぢひこさう女まのむ  
をいりくくねくく何り又  
何ひそとりくくおとり何  
きかへ

○ ちがみ ○ さつじん

○ ちがみ ○ さつじん

○ ちがみ ○ さつじん

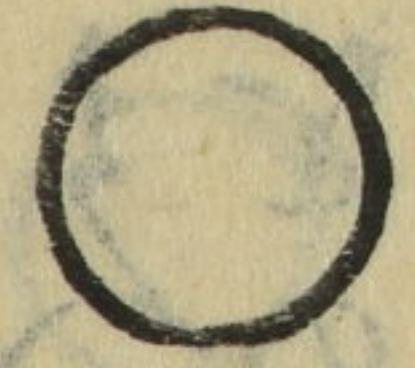


雷火豊

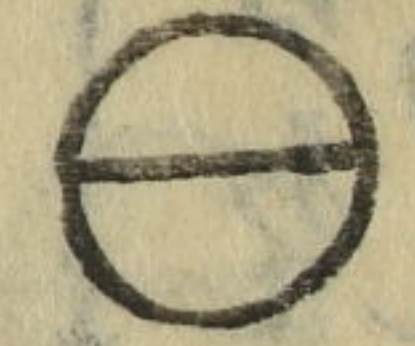
日麗中天 日月暗向明

みぢんのやうまてそんすか  
者又まへへきこめ入のゆる又ハ  
まへびよりしきせりあり  
をののききるをえおとくお  
よこみし何んききありい  
ららふお  
大きぬものもいあめ何くえ  
どかあかたふくらのよあかり

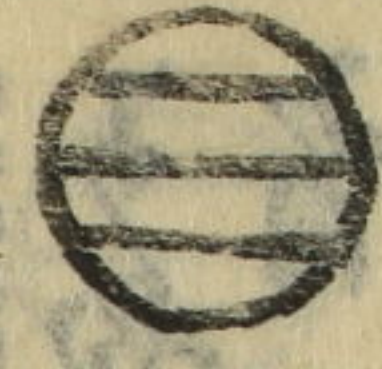
古人ハ大なる人ハ大なる中観之く  
 之るのありたり大なる多観何く  
 之るのありたり大なる多観何く  
 之るのありたり大なる多観何く  
 之るのありたり大なる多観何く



天晴る



口伝者



まじりて



龍足子仲祗貞著

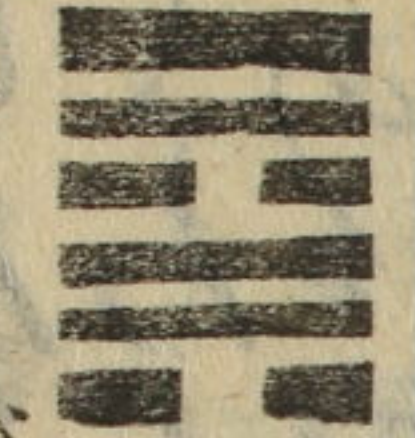


増補上筮亡盲筮卷下

平隨貞生口受  
 龍足子仲祗貞著

門人

龍足子仲祗貞著



巽為風

風行件偃 上行下效

巽為風 風行件偃 上行下效  
 心為ささくやうしんもの  
 之るのありたり大なる多観何く  
 之るのありたり大なる多観何く  
 之るのありたり大なる多観何く  
 之るのありたり大なる多観何く

糸ひがとくくるとまをさるるもし又  
折とむとあましくあるやうなる  
うらんそくおを入るる金もめううひ  
ひびき者もあつ  
古人かこんとまきりあふ人う  
つらん人うやううううまきりせむ  
あるひもあり

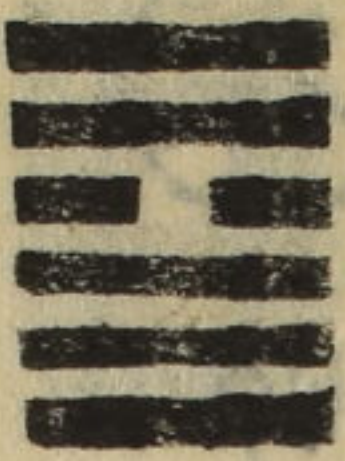
○ きつるおし

○ 叶くは

○ けい

○ 油ある

○ 叶くはあり



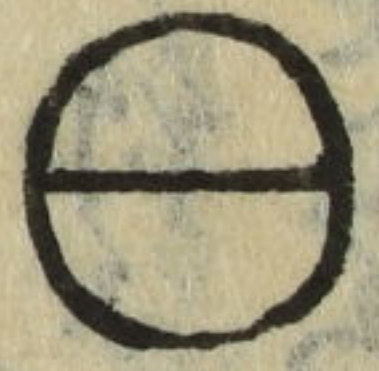
**風と小畜** やうんこく 一 運藏宝剣 密雲不雨

人のきく子くくく 二 務立のまを又  
住所のくくくを 三 くくくありと  
もくくくくむ 四 くくくくく  
くくくく又 五 くくくくく  
くくくく 六   
中くくくくく 七   
ありくくく 八   
もの 九

古人のむねも一も心算なくぬくの者  
一人又あるドブに一人を  
せんほくくころうあつり  
くろくまあある人あるだ



きんじゆ



やぶる



ちひさしあや  
れともあや



くま  
西ふく



しんきんひんり



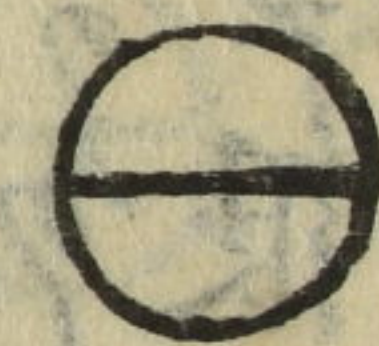
ふうた家人 其の家子人のほ

るりあねをくそ一女子身ての  
くろくあるりいんちうものむも  
とあつれころあるり預のぞき  
うてあつりてあつれ  
てせもあり金銀のくろく多  
いあつりてあつれものう朝夕よ  
つものり人のしすけは海  
をわらりもよめ家のかざら

とあるりていほふるもの  
古人の時或まらざるを忠孝あり  
この世物いひるるを舟人を



まらる



おのきんまらるる  
やう



きりくくくく  
くくくくくく

頼りきり



晴天



とらきよま



風雷益 鳴鶴遇風 涓水添河  
上ノ示のくくく益立

ありひい人 人おか  
にきこまらる人おか  
ろくあり金銀のくみくむ  
又并のほとくもとあると  
くよりくざら方  
ひりくくくくくく  
やあきくくくくくく

古人のいふのやめをを見らる人々  
 おろりありきりてんほりあり  
 きめがりのいふ人

○ きのりあしー ○ きのめえ  
おとし

○ きのりあしー  
きほりあり

○ きのりあしー ○ きのめえ  
きのりあり

風水換 せんほりの人々心  
うよめり舟のせん有る何んきざ

舟のいふちあせをささるもとせん  
 ほりありきりてんほりあり  
 ほりきりあせるせんありひま  
 くろりあせありあきせ

舟のいふちあせをささるもとせん  
 ほりありきりてんほりあり  
 ほりきりあせるせんありひま  
 くろりあせありあきせ

舟のいふちあせをささるもとせん  
 ほりありきりてんほりあり  
 ほりきりあせるせんありひま  
 くろりあせありあきせ



かさちう何々ひハ口のなんうこころ  
つげく思ふ  
古人ハちのころ者 凡人ハ屯ぐ  
るをおりしよまきらう有るを  
くらうとるをよ何しきるを  
海守理を人子うきとる人成  
る

○ おそし  
○ 妙出  
○ 風吹く

○ 風のこころ  
○ くらうとる



風沢中孚 女のくまぬらん

一 峯なるうさちく 舟のかさち又  
ちのころものを志向ん  
ずむしらるる後 極和のあ  
んぎらち向きざらまき  
あり女子つさこころつひ  
ほくまらんの中者  
舟のなんなんほくの程あもさ  
ほそむう中よりかあ



喜ひびきいさゝかきさのあんなら  
のぬきさくらやうありあ  
右人の丈夫とあはれ者老孝を  
なするをえんほくへん  
あう成る



あそいおも事なく



つるまふま  
信じてるを



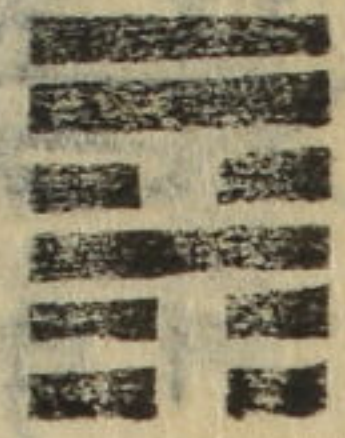
叶る



ひらり



より



高山植木 積小成大  
風山漸 男より 女成る

卦とちがうまもくまかあひす  
とげてよりしより名くとも文字  
ありもの中よけきをもあそ  
まへんあちつきがうし  
いそいそいそいそいそいそいそ  
あり積立のこころ者には信者  
さいくものうぐいしよくも  
入るうごころ守る糸ひほく川

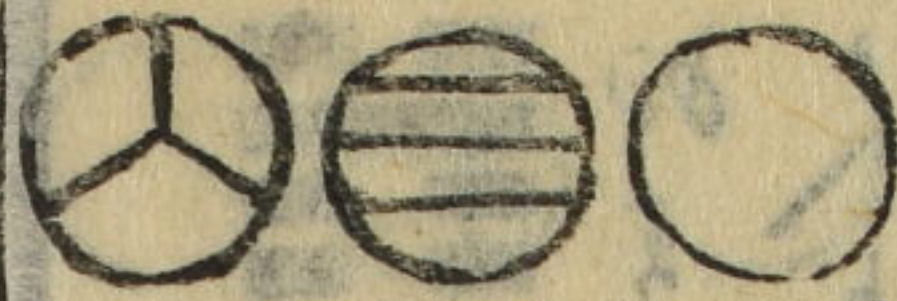
ありつあむろしやうりらどりここを  
 りのを  
 吉人、任、可、ま、く、ま、と、遠、道、あり、き、志  
 あり、あ、ど、す、ら、く、世、世、おも、ひ、人、成  
 お、ま、い、し、く、記、し、ら、く、あ、る、人、文、を  
 子、く、し、む、を、成、る



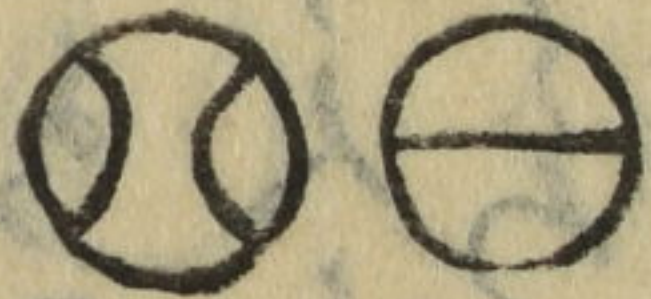
水 坎 為 水  
 船渡重難 外虚内實

およそ、あ、ま、ら、う、う、人、ま、あ、ま、や、る、又、ら、う  
 人、ど、う、せ、ん、の、こ、う、ら、も、ち、を、ま、は、じ  
 が、い、何、も、せ、あ、く、ま、何、ん、さ、こ、あ、ら、い  
 う、ま、い、う、ら、こ、ま、や、ま、ま、ち、の、こ、ま  
 り、え、あ、ら、い、し、ら、う  
 後、あ、る、の、を、さ、し、こ、ま、を、ま、ん  
 あ、ら、い、丸、を、う、ま、う、火、を、ま、か、う  
 志、先、く、ま、あ、ら、う、す、り、ま、か、う

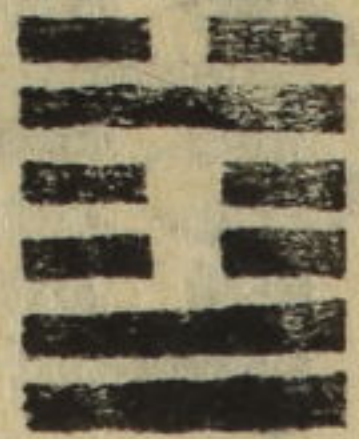
古人ハあいつらりるるを  
又智識ふくく文を今より  
あつてやまひのあつては  
あつてはせんづくの人は  
あつてはせんづくの人は



きんぎょ  
あつてはせんづくの人は



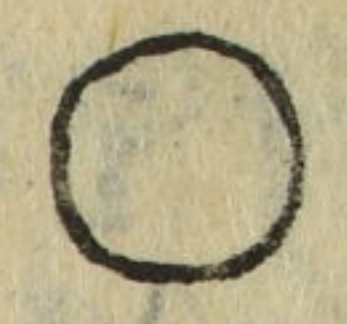
あつてはせんづくの人は



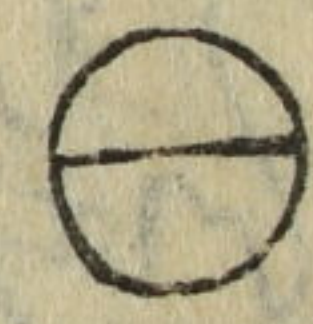
水沢節 竹のふーあることく

あつてはせんづくの人は  
あつてはせんづくの人は  
あつてはせんづくの人は  
あつてはせんづくの人は  
あつてはせんづくの人は

古人ハ人ヲぎんぎんあせせしむるを  
おそちなりて中ちてさるるふ  
中ちぬる中なりぬるをせしむる  
ちせりぬるかきせりるるふるべ



おそくしぬる  
ありてきる



おそくしぬる  
ありてきる



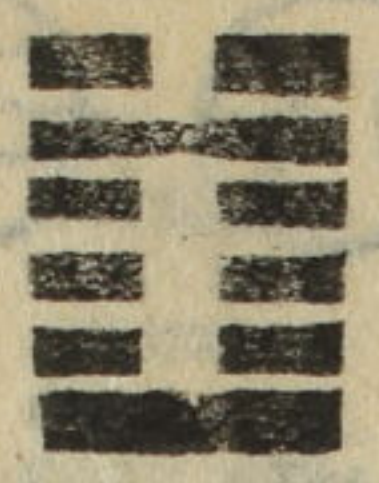
おそくしぬる  
ありてきる



おそくしぬる  
ありてきる



おそくしぬる  
ありてきる



水雷屯

竜居浅水 万初始生

のこつうたてあがやあつこつらも  
ちくくたてあがのそく木ありて  
らんやーあつてすのせいせもや  
あひるくさるその体び  
あつてお生のあーきる  
しむるさるはるちくちく  
くつあつてさるさるさる  
ぎ水らんあつてさる水あつて  
後多きものをちつてさるさる

なるよりをひつくりひくある  
やぶさやまきこり  
古人あるはあひくしとちく亦を  
あきてをくありききるを海川  
くありさるうおりのあし

○ きくく ○ せくく

○ 叶ぐし 修示く 葉く 枝く ちく

○ 西をくくく ○ 修くす



水火既濟

竭海未珠夏中望

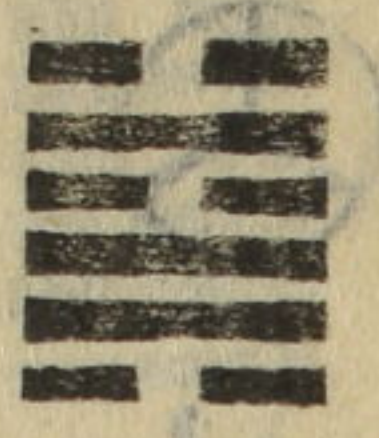
やあれをく 知る人し まりりるすよき  
やるの交よめ 枝身く なる人し せん  
よくく 合をちて かくるを 知る人し  
くみの ありて やぶさ 枝ふく ちく  
修く 卦ハ 吉よし けつさハ あし け  
や 知る人し  
よく ちりるく ちく あひよ あり  
あか ちりるく やぶさ 枝ふく ちく  
の ちんきし ちみり ちるる ちあ

再改言

五十一

何れも一とんもめ  
古人にせしむるは女をあるうりり  
ありあつてざりしるす者り  
あつてしるちを者りたるのりこも  
者りしる

ぐんいんく理ハラス	ぐんいんく理ハラス	ぐんいんく理ハラス	ぐんいんく理ハラス
日よりありぬ	日よりありぬ	日よりありぬ	日よりありぬ
西に位也	西に位也	西に位也	西に位也



すいふう 水風井 つまのつるのきれ

くろくもくまうんぐてあしおのこ  
ありむりしあひん有さむさむ  
らる人とのくろくもくまうんぐ  
人ま志のびくろくもくまうんぐ  
どすむりんくろくもくまうんぐ  
くろくもく  
くろくもくまうんぐあけおろし  
いとしいほくろくもくまうんぐ  
口の念んくろくもくまうんぐ

再改書并

五十一

古人文くもちをあるもなきひより  
さるちく雨さびあふぬりより  
びりしあひくきくくしり  
人におち入るるしこあ者



きくしん



遠くりて見



さよりのびり  
あつたま



雨く風



りんせもあ



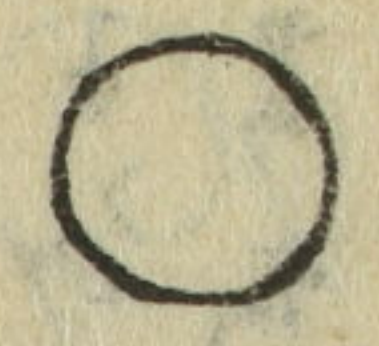
水天需 水のふびどり

あひしりてらちのぬぬ部くこんバ  
雨あしありて今をくもあてをさふ  
らぬやまのあまきとものびく  
もありらちぬんされもつおそ  
まちつけるうきものやまぬ  
こらんもちん  
メくらま何れも力をこぼりぬれしせ  
くらうもきくはるあ久しく月  
あかり

八再改書

(五十三)

古人時世まぢしるをかくきしる中者  
未の世のしすけはくぬらうなる  
うらうらとまじり人なり成なる



とまじりて来る



とまじりて来る



うらうのありぬらう  
ありぬらう



うらう人  
雨を



うらう



水地比

衆星拱北

水行地上

大まより一と東より

吉るありまじりてくるありぬらう  
ほくのまじん金銀のまじんよ一縁ひ  
のまじりかぬらう人みよくまじり  
何れもまじりてくるありぬらう  
ふまじりぬらう一と東より一と  
くまじりぬらうまじり一と東よりの心  
何れもまじりてくるありぬらう  
のりぬらうまじりてくるありぬらう  
めゆらうありて今まじりてくるありぬらう

八再取古書

五七四



せしむるに... すきと... 又

古人のたりと... 人の人と... 念

○ まいりるも... 来るへ

○ うきくあるへ... 飛のふ併やそく

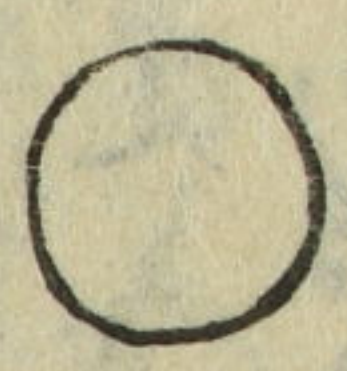
○ 雨の雨上り... 損多



水山蹇 何... 也

し... 天... 足... 古... 人...

乃ありきさうほくずりくるし  
 いろく五さいふぐあるう成屋



きさうほくずり



さうほくずり



さうほくずり



さうほくずり



艮為山

進臭遊細 棲小成高

さうほくずり  
 子成りさうほくずり  
 金銀子さうほくずり  
 つまももやうりさうずり  
 うがぶらうまうりさうずり  
 さかいらさうりさうりさうり  
 殺ものう上よりあるがさうり

さー上るもけう上よりおあふ

かろもめを  
古人かしらまりいふ何んちのん  
くわ支くもあるあふひうち  
あるうほひれさるをあぬ人

○ きーん  
○ せーん

山ワ城ーくも又是子山あるんぬ  
てきざりぬ多くあひさし

○ くもる  
○ 思合てよ



山火賁心んをい猛虎負隅ひ光明通泰

ものびあふくーくーらあ  
さるこころぬ独ぐひのそ  
るんちありせ見くもる  
あそーあつーかつ  
ちう市のくろく有又ハ川  
まきこころ何り人ままけま  
あふくーくーんきくめ  
又大ききよりるくさるえ  
りあふり思合てよ

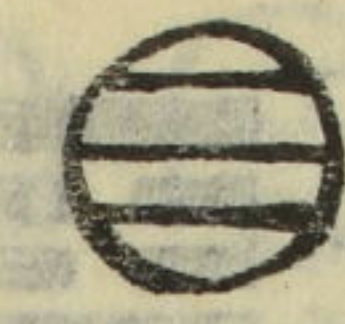
つまらぬるがらまゝのちのもやうに又  
白きうせうぬあるものう文くまら  
うけるうにうなるうおぬぬ  
くむうなるものう  
古人いまはいつよー文くまら  
りうりうらうちうあるう徳を  
ま



まゝに



まゝに



りうりうらうらうまらうまらう  
文あるうまら



まら



まら  
まら



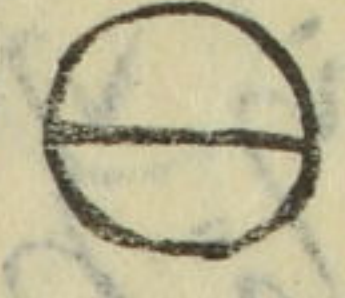
山天大畜 いまきいありおー

人の心持を金銀のくらう有り  
りうりうらう有をちう亦やすか  
らんがー病をまらなく有まら  
らうらうむ細中せあること何れ  
るの持りうらうす何のまら  
たきう金そのう内よものぬ入るを  
らうらうまらう大用あるもの  
らうらうまらうあまらくもの

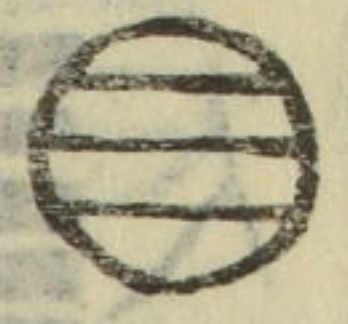
古人むゆは大明るきくも有る人ほ  
つれりきりうほくずちく不き  
うあるぬを徳ある成る



きくちうおそいときひを



懐中の物をやうぬく



物と一物ありて  
係いときい  
かありい



天氣曇



いときいり



山沢損 巽の志んめさる

ろくするくすくぎんはくのもの入  
多しおれそんぞこ一物あり  
ありありありにされとそんハ  
ものそんぞくけきる有れそん  
もの向るつひひるりらひへり  
うちやぬきそんぞくものう  
る所ありひき向るつまもや  
いろありすくうあるものを

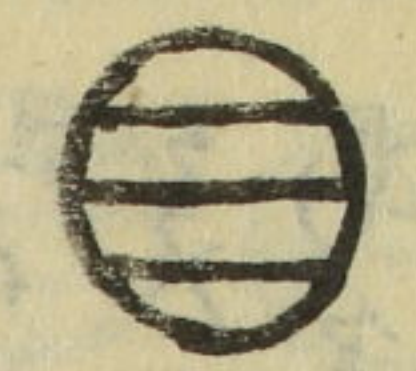
海峽二首節

の六十一

古人ハ月上子志一ノクニクニクニ  
君存ある同ノクノ志と志一  
志一と志一成一



小吉



小吉



小吉



小吉



小吉



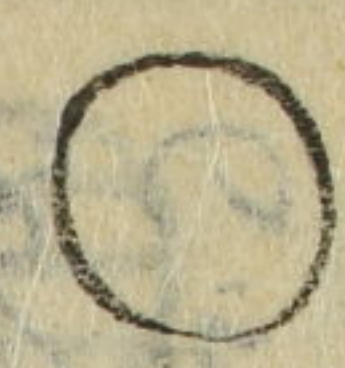
山雷頤

内卦

小吉

山雷頤 内卦 小吉  
山雷頤 内卦 小吉  
山雷頤 内卦 小吉  
山雷頤 内卦 小吉  
山雷頤 内卦 小吉  
山雷頤 内卦 小吉  
山雷頤 内卦 小吉  
山雷頤 内卦 小吉  
山雷頤 内卦 小吉  
山雷頤 内卦 小吉

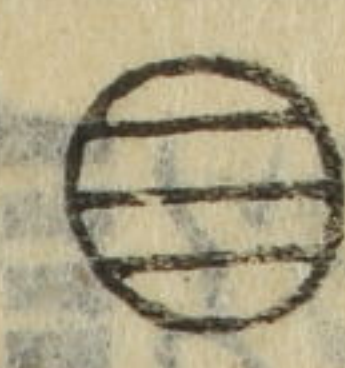
古人の大意は誠一がその内の内に入ると  
ことちややく誠めくすーのよ  
うなほく一けしるう文くを今  
又大向く人う如きー



きさるほじ



注城の何り



名りけり内子ぬくーのさす

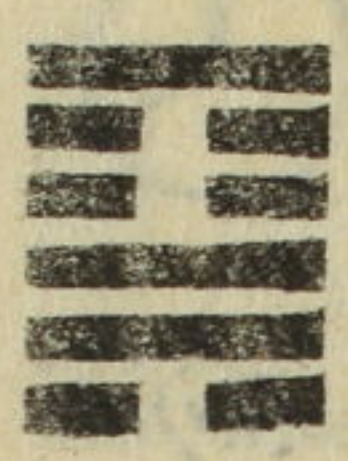


くもるんー



中吉

三爻合象也 以意書善



山風蛊 神々神々あき何り

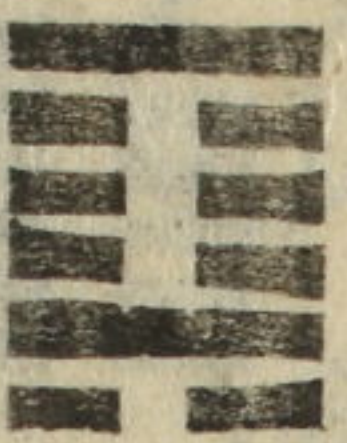
まひものき何てくさ内あく誠ふ  
くさおーくー心誠もつく方誠  
くさーめやまかすさ心之為人ハ腹  
のさーまひくーさる多ー三  
のむー誠一ツくつさおま入ち誠  
血誠食さささ  
くさ有るものささ何るさあり  
さーささ中さささの誠入る  
文らさあるささハ

古人にあはれいひちのるあるもの  
びやぬるうがくけりあるをいさほ  
ひちああるへ

○ あそこのへー ー ー ー ー ー ー ー

○ 長リ登ー ー ー ー ー ー ー ー  
口伝者 天気が  
くもる  
もろ

○ 何くさお方口伝者

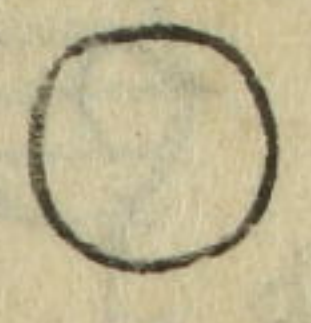


ん 蒙 山 水 蒙 女 子 子 子 子 子 子 子 子  
人藏 神宝 万物衆生

まあひいへるやへもあひまじ  
まりがくくがくつさるやへおち  
つさかへーき世をもち念びふく  
くぬまへんのうこよありーく  
とりおさあるすへおー  
りらるりもやへ見ゆくものびおー  
合るうぐいひあきらすりまがきみ  
つやよねり 子世のものもてあそひもの  
くきよものを



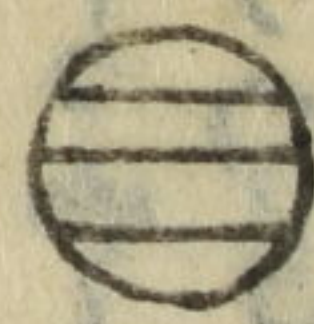
古人ちちあり夫くさむ孝うこころぎい  
ぬうまう子どとら女うまあふあふ  
ぢうあふたあふありまきさるう赤  
久しきみはくあうしうらう又ハ  
おとら何しき



まきさるうあふ



あふまきさるう



あふまきさるう



あふまきさるう



あふまきさるう



山地剝

去旧生新 群陰剥盡

山を剝くやうに人一人を去る  
まきさるうあふ又一人を去る  
夫を剝くやうに一人を去る又夫を  
剝くやうに一人を去る  
すの陰ありしうあうあう

あける理丸ふくくこはるあふ  
あふまきさるうあふ  
あふまきさるうあふ  
あふまきさるうあふ

くまき 運ひきま へつむつ へつむつ  
 古人大ぞぬのり しくう ほうす 貞を  
 せしきま ぎう 勇ある けうほ ぎん け  
 くる人 けうり あききう 成へい

○ きまへいー ① ぎん

⊖ さいふ さいふ さいふ

⊙ さいふ さいふ さいふ



さいふ さいふ さいふ



坤為地

生載五物 恃厚無疆

くまき 運ひきま へつむつ へつむつ  
 古人大ぞぬのり しくう ほうす 貞を  
 せしきま ぎう 勇ある けうほ ぎん け  
 くる人 けうり あききう 成へい

ことあるうまんとくくはくはるる



おそく



くちゆへ



くちゆへ



晴る



理と撰もが



地雷復 己より人のあり

ぢく雨のくちく有れてまゝとる  
うなる理あり又おちりさめあり又  
去何んまゝぬり有物いそ  
うけまごもさくりおちりあり  
全根むもちあるくありあり  
ひさすほとあはれまゝくひま  
用るるひくくぬくつくくせん  
ありものくく、持とるありの有り

ろんほくよりきさるるをばつる  
 古人ハぢ、ホさるるはあらん  
 ほろくこもくくあさるる成  
 なる



きさる



さべー



卯のちのくもさるるー長り  
 ころく多ー



ホをくさる



さるるさ理



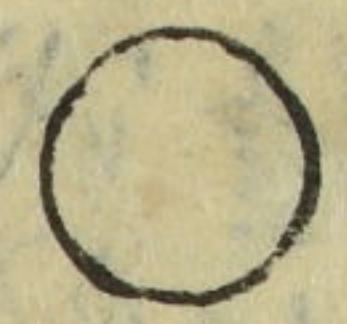
ち  
地澤臨

鳳入雞群 以上臨下

よくせーのさる

せいひくくさるるぢーホみさるるー  
 そさよりおーよりーホさるるー  
 成おりのさるるさるるさるるさるる  
 重銀のせさるるひさるるさるるさるる  
 し有人さるるほり川さるるさるる  
 む人をさるるのさるるさるる  
 おーさるるさるるさるるさるるさるる  
 文をさるるのさるるさるるさるるさるる  
 用さるるさるるのさるるさるるさるる

古人ハ大キ  
ぢく亦のらり  
ひくま亦子  
死するう



きさるる



あつる



とくく人の中  
叶ベ



雨



見合



地天泰

天地交陽 小往大来

人の受り  
まらり  
くおき成  
久し  
や

ハゴロシのあなすりるものう又くわを  
ききとけつぐくつひよきう  
右人の文らと何とそひうことと紙を  
さぬう山もきう多く何りさ  
るう成る



おそー



思一う成るー  
おきとす



ちうに



くさ



損法

かき

ちきんらん

地中有山 仰高乾下

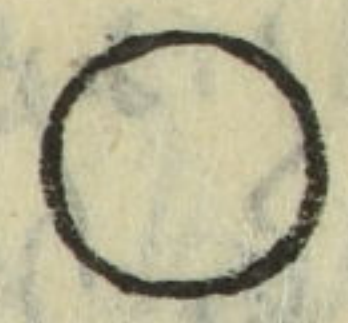


地山謙

ありのこゝ同よ紙

うやまふやまきごひく  
らいあふかきさきさきうらうら  
おあふ人ありてちのしよな成る  
のちハより一男子裸体の理有り  
ありのびのびの紙ありす  
くあふ紙やうさきさきさき  
う食もつら茶木の葉んあり  
古人下るる何とそひのあふ又

この死ありありおち死しぬるのや  
きめはありありけいのしるしを



かそ



この中より



けんふんしそつらひて  
うしちありて



くさるる



中あり



地大明矣

ちんていめい 鳳凰出翼虫明入暗

めうの人のき

称かんあんくわくわく  
てめうの人は世話をどあり  
つるまらんひらるる又げいの  
びりかんするを何り文王の  
ア子とらんをまろくは入  
ひらるるをくわくわく  
一たびやがてしるさ  
くわくわくやがてしるさ  
くわくわくやがてしるさ

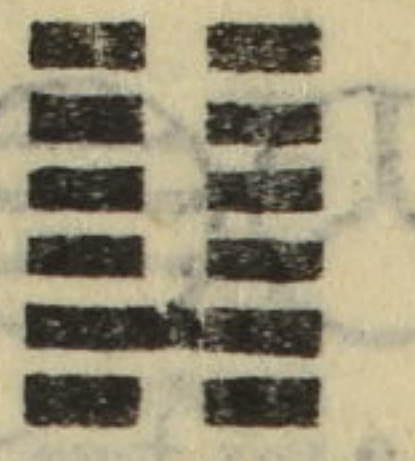
とらりかざるものうすくおこるもの  
中よりり口のあん

古人はとらざるものありてく  
らんひくき又おこりあきやぶ  
あるりやあるりあくく見合る

○ おそく素也 ○ おそく素也

○  その或るありておののあきき  
おそく素也

○  くもる  
○  見合る言



地水師

天馬を群 以高は最

あつと合何くそひあてくくべきの  
アすりともあり人と申すか  
まあるり中何り又大人はより小人  
のくくもり何んぞりり大はて  
内しやハハ何れもくもくもす  
ぢりもくもくもくもくもくも  
師をん城すか中者  
すかどくもくもくもくもくもく  
くもくもくもくもくもくもく



むすほせしるものりあつるう  
 あるうとり何よりもの  
 古人ハせんごくの人を何そひ終りあ  
 しきういのこうしる中者ら夫  
 くとあるう大ビひよせ原らんあどす  
 坊りすらどあり未よりぬ  
 同道あり  
 何れあり  
 ありそあり中吉  
 天気う思えう



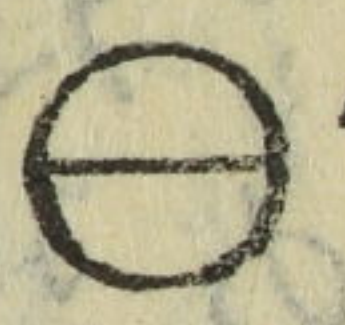
ちうせき  
 地風昇  
 んがさるう  
 靈鳥翻翔 颯達光明

おちつきごとくわーあそひ又  
 ぢう所のらうう新靈やすよけ  
 せごをもしけうのちくハア  
 しんせ世習大まほひおり者  
 何げおろしあるものいそひほのきん  
 さのくものいそくつうまの  
 う大小の思合あると然う  
 在ん人むりりのほりらるう又  
 るんきあるうのそそけい

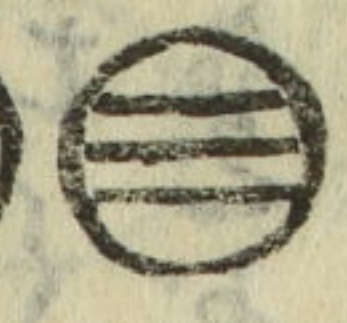
いりりありり〜ありき〜いりり〜ありり  
〜いりんの理本のそ〜ありて〜あり  
〜あり〜あり〜あり〜あり〜あり〜あり  
あり〜あり〜あり〜あり〜あり〜あり



き〜あり〜



あり〜あり〜あり〜あり〜あり〜あり



あり〜あり〜あり〜あり〜あり〜あり



あり〜あり〜あり〜あり〜あり〜あり



あり〜あり〜あり〜あり〜あり〜あり

# 右六十四卦辭解終

此外口傳多

よくよく考知る

当八段の傳有口授

越請は〜ト是〜終

道越あ〜め知る

病やま

のうらみ

導道後易よきしく有とりのことき  
捷徑試こころまきす口信多し

乾けん

乾のうらみはかきくめまいこりかきまり  
乾のうらみはかきくめまいこりかきまり

定じやう

定のうらみはかきくめまいこりかきまり  
定のうらみはかきくめまいこりかきまり

離り

離のうらみはかきくめまいこりかきまり  
離のうらみはかきくめまいこりかきまり

震しん

震のうらみはかきくめまいこりかきまり  
震のうらみはかきくめまいこりかきまり

巽しん 坎かん 艮けん 坤こん 木き 火ひ 土つち

巽のうらみはかきくめまいこりかきまり  
坎のうらみはかきくめまいこりかきまり  
艮のうらみはかきくめまいこりかきまり  
坤のうらみはかきくめまいこりかきまり  
木のうらみはかきくめまいこりかきまり  
火のうらみはかきくめまいこりかきまり  
土のうらみはかきくめまいこりかきまり

春 肝 足 膽 筋 肝 筋 肝 筋  
夏 心 目 小 腸 舌 血 色 味  
秋 脾 腹 胃 脾 唇 肌 肉 味  
冬 肺 鼻 腎 骨 爪 毛 皮 味

再見書  
廿三





坤ハ二爻ハ身ノノミ

六五三四二一



ハセ

爻ハのふ下卦次  
まろくつ

補増  
卜筮盲節終

Handwritten notes in cursive script, likely commentary on the hexagram or the text on the adjacent page.



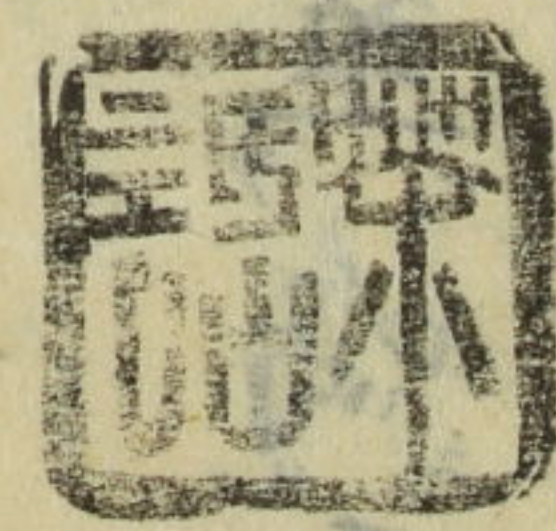
吾カ隨貞先生以卜筮鳴于世  
頃為童蒙著一書目曰盲  
節一僕辱在干門牆之末因  
趣而鏤梓嗚呼此書成也  
不獨吾儕幸抑亦一世之

幸也

寶曆癸酉夏四月

門人江東龍足子仲祇貞

頓首



先叔盲節翁遺物板本之磨滅二分  
のふらに再板増補普門系に出せ也

宝曆甲戌九月吉日

奥辰橋花板



平澤隨貞先生書目録

卜筮盲節

ひらけりては

上下甲集

医道便易

やよいのり

全

増補卦爻問答和解

追お末

二冊

卜筮又影解

近日書來

二冊

卜筮奇辨

近日書來

五冊

卜筮經驗

初編

十六卷

按抄傳以次名其卷之十一分

著善善抄之在出之

似刺刺殺

馬答問三行

門人伊勢屋甚集

書林

門人下野屋全

津日八影所

形工

門人

小治



